

教師と車屋

Junko Higasa 2014.3.15

『吾輩は猫である』の珍野苦沙弥先生は「教師と車屋とどちらが偉いのだろう」と問う。この答えを探す場合、日露戦争時下という時代背景も考慮に入れなければならない。

国家戦力になる人間育成のための教育を施す教師と、万民の足代わりとなって遠くまで運ぶ車屋と、どちらが偉いのだろう。

高等教育を受けながら直接的な国家戦力になれない教師と、高等教育を受けられなかったが即実践に結びつく車屋と、どちらが偉いのだろう。

国家に寄与する人間育成の名誉の薄給で生計を立てる教師と、名誉もない代わりに万民から稼ぐ僅かな金で生計を立てる車屋と、どちらが偉いのだろう。

人を圧迫しながら金に圧迫される人間を製造する教師と、人に圧迫されながら金に圧迫されない労働を提供する車屋と、どちらが偉いのだろう。

どちらが偉いともいえない。教育がなければ人間は発展しない。車がなければ歩くしかない。ただ教師の労働は未来へつながる。車屋の労働は現在を補う。そこに大きな違いがある。そして人は目に見えるものを真っ先に信じたがる。現実に見えるものを掴みたくなる。だから金儲けに重きを置く。

金儲けにならない教師の本来の役割は、正しい人間形成である。漱石は人を圧迫する学校教育に従事するが、小説で人を圧迫しない人間作りに貢献する。